

## 童謡・童話の中の擬音語・擬態語の使用分析


<https://doi.org/10.24412/2181-1784-2022-22-162-171>

ラヒモワ・ディヨラホン Rakhimova (Sobirova) Diyorakhon

タシケント国立東洋学大学 日本学部教師

Toshkent Davlat Sharqshunoslik universiteti Yapon filologiyasi kafedrası stajor-o‘qituvchi

[diyora0924@gmail.com](mailto:diyora0924@gmail.com)

## АННОТАЦИЯ

Тема данной исследовательской работы «Применение ономапоэтических слов японского языка в детских песнях и сказках», в рамках которой рассматривается степень использования и количество используемых ономапоэтических слов в японских детских песнях и сказках. Для этого вначале определяется количество детских песен, а затем производится подсчет используемых ономапоэтических слов. Аналогично осуществляется изучение использованных ономапоэтических слов на основе специально отобранных двух японских детских сказок. Результаты данной исследовательской работы позволят получить подробную информацию о степени практического использования японских ономапоэтических слов, что послужит дополнительным источником информации для исследовательских работ в этой области в будущем.

**Ключевые слова:** ономапоэтические слова, детские сказки, японский язык, количество, число, применение.

## ABSTRACT

The topic of this research work is «The use of onomatopoeic words of the Japanese language in children's songs and fairy tales», which examines the degree of use and the number of used onomatopoeic words in Japanese children's songs and fairy tales. In that purpose, we first determine the number of children's songs in general, and then count used onomatopoeic words. Similarly, we carry out the study of the used onomatopoeic words on the basis of specifically selected two Japanese fairy tales. We hope the results of this research work will provide detailed information on the degree of practical use of Japanese onomatopoeic words, which will serve as an additional source of information for research works in this area to be carried out in the future.

**Keywords:** onomatopoeic words, fairy tales, Japanese language, quantity, number, application

## 1. はじめに

擬音語（擬声語）とは、「ばたんとドアが閉まる」の「ばたん」、「犬がわんわん鳴く」の「わんわん」のような音や声を表すものである。また、擬態語は、「ぐっすり眠る」の「ぐっすり」、「きらきら星」の「きらきら」のように、人や物の様子を表す言葉である。日本では日本語が事実上の国語とされてきたが、擬声語は<sup>1</sup>金田一春彦による研究が知られているものの言語学において長らく研究対象とはされてこなかった分野である。

日本が模範とした欧米の言語学は実際的な使用面よりも抽象的な理論形成を主眼においたこと、そもそも擬声語は言語体系の中心を離れた周辺的なもの、要するにだらしなく子供っぽいものと見なされたことがその理由である。子供っぽいという点に関しては擬声語が日常語や子供向けの本に多用されるが、学術論文などにはまず登場しないことから窺え

<sup>1</sup> 金田一春彦(2002) 『現代国語辞典改訂版』学研社

る（疾病及び関連保健問題の国際統計分類で標準病名となった「もやもや病」などを除く）。

音と意味が直結した言葉である擬声語の意味の違い（「おずおず」と「おどおど」の違いなど）を考えることは、日本語の言語感覚を磨くのに役立つとする見解もある。

<sup>2</sup>田宇（1998）は「現在、オノマトペの一般的に二つの種類がある」と述べている。

1. 擬音語（擬声語）
2. 擬態語（擬情語、擬容語）

その他、「擬声語、擬容語、擬情語もオノマトペの種類だが、普段、擬音語と擬態語ですべての種類が現れる」と言及している。が、オノマトペを分類する際、「人間の心の様子を表すオノマトペ、生物と無生物の分類がある」と思われる。

擬音語・擬態語は自然の音をまねて表した語であるから、どの言語でも似かよっていると思うかもしれない。実際、似かよっているものもあるが、ずいぶん違うものもある。それは、たとえ同じ音を表すものでも、日本語と他言語の発音の仕方にあわせて、擬音語・擬態語が作られているのだ。そこで、筆者は音と意味が直結した言葉である擬声語の意味の違い（「おずおず」と「おどおど」の違いなど）を考えることは、日本語の言語感覚を磨くのに役立つとする見解もあると考える。

<sup>3</sup>森田の研究によると、擬音語・擬態語と昔の日本語の間に関係があり、発達は8世紀のはじめから始まったので、擬音語・擬態語は昔の言葉だと強調する。森田・正子の計算によると現在日本語には2300擬音語・擬態語がある。<sup>4</sup>金田一（1978）「擬音語・擬態語概説」によると、擬音語・擬態語の種類を分析した。「擬情語」「擬容語」「擬態語」「擬音語」「擬声語」の種類がある。

さて、日本語オノマトペは、上で述べたように金田一の分類のほか、これまで複数の研究者によって様々な呼び方や分類があったが、<sup>5</sup>田宇（1991）は、それを以下の4つの立場に分類している。

- (1) 湯沢(1931)・築島（1941）
  - 擬声語—音に関するもの（声を含む）
  - 擬態語—音以外に関するもの
- (2) 堀井（1986）・山口（1986）
  - 擬音語—音に関するもの（声を含む）
  - 擬態語—音以外に関するもの
- (3) 小林（1933,1965）・鈴木（1973,1984）
  - 擬音語—音に関するもの（声を含む）
  - 擬容語—音以外に関するもの
- (4) 金田一（1978）
  - 擬音語—音に関するもの
  - 擬声語—声に関するもの
  - 擬態語—無生物の状態を表すもの
  - 擬容語—生物の状態を表すもの

<sup>2</sup> 田宇（1998）「現在、オノマトペの一般的に二つの種類がある」東京堂出版

<sup>3</sup> 森田雅子(1953)「語音結合の型より見た擬音語・擬容語—その歴史的推移について—」東京大学国語国文学会至文学会

<sup>4</sup> 金田一(1978)「擬音語・擬態語概説」角川書店

<sup>5</sup> 田宇（1998）「現在、オノマトペの一般的に二つの種類がある」東京堂出版

### 擬情語—人間の心理状態を表すもの

「音」を表象するものとして発生したのち、その意味に様々な派生や転移が起こり、「音」以外のものもあたかも「音」のように象徴的に表すようになったという可能性を示唆していると思われる。

#### 2. 仮説

擬音語・擬態語の意味を暗記していても、認知が良くない例が多々ある。事実、未だに擬音語・擬態語を正しく認知している日本語学習者は少ないのである。

仮説として、筆者はこの問題は、意味を正しく覚えるだけでなく、認知の仕方が間違っている。これは、教育法にも問題を維持してしまい、日本語学習者は正しい感覚で認知していない。日本語母語話者による五感と日本語学習者の五感での擬音語・擬態語のとらえ方が異なる。よって、学習者の感覚習得が難しくなり、擬音語・擬態語を正しく認知することが困難になるのであると筆者は述べる。

#### 3. 研究方法

まず、童謡の中でもどの頻度で擬音語・擬態語が使用されているのかを分からなくてはならない。その為、本報告では童謡又は童話での擬音語・擬態語がどのように使用されているかを考察してゆく。童謡又は童話といった幅広い範囲で読み、擬音語・擬態語の数や種類を見つけ出し、それらを本来の意味を調査する。

本報告が多言語話者の擬音語・擬態語の感覚認知による問題を解決にいたる第一歩であってほしいのだ。筆者の目的はより正しく日本語の擬音語・擬態語を感覚的に認知して、日常生活にも欠かせないものになり、童謡又は童話そして、広告や本などでも正しい感覚イメージを取りながら、正しい認知をしながらそれらの美しさを、即ち、擬音語・擬態語の魅力を実感しながら聞き、読んでほしいのだ。擬音語・擬態語は日本にとって欠かせない言語の一部である。

#### 4. 童謡・童話に用いられている擬音語・擬態語の区分

筆者は、<sup>6</sup>成美堂出版編集「思い出の童謡・唱歌 200 唄い出し索引つき 楽譜」から童謡に含まれる擬音語・擬態語を探った。200の童謡の歌詞の中から120個の童謡の中から擬音語・擬態語を見つけ出したのである。120個の童謡から得られた擬音語・擬態語の数は計：242個である。擬音語は擬態語より多いことが以下の表を見ると分かる。童謡では音のイメージを表すオノマトペを用いることが多いことが明確になった。

200個の童謡から80の童謡には擬音語・擬態語が含まれていなかったもので、以下の表リストには曲名の所に書かない。

以下、童謡の曲名とそのなかに含まれていた擬音語・擬態語のリストである。

No.	曲名	童謡にある擬音語・擬態語
1	5にんのこびと	ラッタラ
2	あがりめさがりめ	ぐるっ

<sup>6</sup>成美堂出版編集「思い出の童謡・唱歌 200 唄い出し索引つき 楽譜」2001.08.06

3	あくしゅでこんにちは	てくてく、もにゃもにゃ
4	あしぶみたんたん	たんたん、ぴょんぴょん
5	あひるのぎょうれつ	よちよち、があがあ、すいすい
6	あまだれいっぽん	ポッタン、コロコロ
7	あめ	ぴちぴち、ばしゃばしゃ、ぽつぽつ
8	アメチョコさん	コロコロ
9	あめふりくまのこ	ちょろちょろ、そうっと
10	あわてんぼうのサンタクロース	リンリンリン、ドンドンドン、チャチャチャ、シャラランラン
11	いちねんせいになったら	ぱっくん、どっしん、わっはは
12	いちのゆびとうさん	トントントン、ジャブジャブジャブ、ペラペラ、ポンポン、チュチュチュ
13	いとまき	トントントン
14	いぬのおまわりさん	ニャンニャン、ワンワン
15	いもむしごろごろ	ごろごろ、ぽっくりこ
16	うまさん	パッカパッカ
17	うみ	ざんぶりこ、ちゃぶちゃぶ
18	おおきなぞうが	トントンの、ギュッギュ
19	おおきなたいこ	ドーン、トン
20	おおきなトンネルちいさなトンネル	がったん、ごっとな、ぴいぽっぽ、ちんちん、ごうごう
21	おさるがふねをかきました	もこもこ
22	おそうじ	ぱっぱ、しゃっしゃ、しゅっしゅ
23	おたまじゃくし	ぴょんぴょん、かっかっ
24	おつかいありさん	こっつんこ、ちょんちょん
25	おつめをきりましょう	チョッキンナ
26	おててをあらいましょう	きゅきゅ、ぽんぽん

27	おててをあらって	チップロン
28	おどろろうたのしいポーレチケ	くるくる、どっさりこ、ころころ、ギンギララ
29	おにぎり	ぎゅっ、ころりん、もぐもぐ
30	おはようのうた	ニコニコ
31	おひさまきらきら	きらきら、ちゅんちゅん
32	おへそ	ピッピッ、ドンドン
33	おへんじ	ドンドコドン、ワンワンワン
34	おほしさま	ぴかり
35	おめでとうのうた	ちらちら、ぐうすか
36	おもいでアルバム	ほかほか
37	おもちゃのチャチャチャ	キラキラ、すやすや、トテチテタ、ぐんと、メエメエ、ニャー、ブースカ
38	おんまはみんな	ぱっぱか、ちょんぼり
39	ガーララパイ	ガーララ、パイッ、ブークク (ブクブク)
40	かえるのうた	けろけろ、ころころ
41	かえるのがっしょう	ポコペン
42	かえるのこ	ピョコピョコ、クークワ
43	かぜさんだって	とんとん、ぱらぱら
44	カレーライス	ぐつぐつ
45	かわいいかくれんぼ	びよこびよこ、ちょんちょん
46	きゅっきゅっきゅう	きゅっきゅっきゅう
47	クラリネットをこわしちゃった	パキヤラマド、パオパオパパパ
48	ごあいさつ	らったらったらー
49	こおろぎ	ちんちろりん、ころころりん
50	こぎつね	コンコン

51	ことしのぼたん	スッポンポン
52	こどもかいのうた	にこにこ
53	こどものおうさま	ぐるぐる
54	こどもはかぜのこ	とっと、ひゅうひゅう
55	ことりのうた	ピピピピピ、チチチチチ、ピチクリピィ
56	ことりのけっこんしき	フィディラララ
57	ごはんをもぐもぐ	もぐもぐ、ペラペラ、こぶこぶ、ランラン
58	ゴリラのうた	エッホッホ
59	コンコンクシャンのうた	コンコン、クシャン
60	しあわせならてをたたこう	パンパン、ドンドン、トントン
61	しずかなごはん	カッコ、ホホ
62	シャベルでほい	ざっくり
63	ジングルベル	リンリンリン
64	スキップスキップ	チョン
65	せっけんさん	ぶくぶく
66	せんせいとおともだち	ギュ、メッ
67	たいこをたたきましょう	どんどんどんどこ、ぱっぶんぺっぶんぶっぶく ふう、りーるーりーるー、ピンポロポンポロ ンポンポン
68	たきび	ピーパー
69	たなばたさま	さらさら、きらきら
70	だるまさん	あっぷっぷ
71	ちかてつ	ゴーゴーゴー
72	ちゅうちゅうねずみ	ちゅうちゅう
73	つばめ	すいすい、ぴいぴい
74	てをたたきましょう	たんたんたん、あっはっは、うんうんうん、え んえんえん

75	てをつなごう	ポンポンポン、ヒラヒラヒラ
76	でんでんむし	のろのろ
77	てんとうむし	てんてんてん
78	とけいのうた	コチコチカッチン、ピョコリ
79	どんぐりころころ	ころころ
80	とんでったバナナ	ツルン、ふんわりこ、にこにこ、ボンボコツルリン、グーグー、ポカン、スポン、モグモグ
81	とんぼのめがね	ぴかぴか
82	なみとかいがら	ぐるぐる、きんきら
83	ねこふんじゃった	ニャーゴ、ふわり、ごろニャーゴ
84	はしるのだいすき	タッタタッタタ
85	はしれちょうとつきゅう	ビューワーン
86	はたけのポルカ	ムシャムシャ、パクパク、コッココココ、クチャクチャ
87	はなのおくにのきしゃぽっぽ	ぽっぽ
88	はやおきどけい	ちくちく、ぽんぽん、ちゅくちゅく
89	はる	ぽかぽか、そよそよ、そーっと
90	はをみがきましよう	しゅっしゅっ、ころころ
91	ハンカチのうた	コツコツ
92	ピコットさん	ピコピコピコ
93	ひばり	ピーコ
94	ビビディバビディブー	さらり
95	ふうせん	そっと、こっつんこ
96	ぶんぶんぶん	ぶんぶんぶん
97	ぼうがっぽんあったとき	ざあざあ
98	ぼくたぬき	ポコペン

99	ポンポコたぬき	ポンポコポン
100	マクドナルドじいさんかっ ている	ピヨピヨ、クワクワ、ギャルギャル
101	まつぼっくり	ころころ
102	まめまき	ぱらっ
103	ミシンカタカタ	カッタカッタ
104	みずあそび	しゅっしゅっしゅ
105	みつばちぶんぶん	ぶんぶん
106	むっくりくまさん	ぐうぐう、むにゃむにゃ
107	めだかのがっこう	そーっと、つーいつい
108	メリーさんおひつじ	メエメエ
109	もちつき	べったんこ
110	もみじ	ぱっと
111	もりのくまさん	スタコラサッサ、トコトコ
112	やきいもほかほか	ほかほか
113	やまごやいっけん	びょんびょんびょん
114	やまのおんがくか	キュキュキュ、ポポポロンポロンポロン、ピピ ピピピピ、ポコポンポコ ポン、タタタンタンタ ン
115	ゆうがたのおかあさん	カナカナ、サヤサヤ、チラチラ
116	ゆきのこぼうず	つるり、するり、じーっと
117	ゆきのペンキやさん	ちらちら
118	よがあけた	コッコケコッコ
119	ライオンのうた	ウァオー、ビュー
120	わたしのこびと	ぶるぶるりん、ポンポロピン
121	わにのうた	ぎょろろ

続いて、物語からの擬音語・擬態語の使用例を取り出す。

童話とは、大人が児童に読んであげる或いは、児童が読める物語の事を言う。その種類は多々あり、民話、伝説、神話、寓話がある。今では、絵本として有名になっているのが現実である。<sup>7</sup>はじめての世界名作えほん あかいえほんのおうち（1～40巻）から童話の中の「おむすびころりん」と「花咲か爺さん」を取り上げて、オノマトペの使用例を見ていく。

「おむすびころりん」		数
1	コロコロコロ	1
2	ころりん	1
3	ズザー	1
4	チュウチュウ	1
5	びよんびよん	1
6	ワクワク	1
7	ズラッ	1
8	ぺったんぺったん	4
9	ぺったん	2
10	ざくざく	1

花咲か爺さん		数
1	くうんくうん	1
2	どんどん	2
3	ワンワン	1
4	ザクザク	1
5	イライラ	1
6	グッ	1
7	ぺったらぺったら	1
8	ぺったんぺったん	1
9	ぴゅー	1
10	さーっ	1
11	ぱっぱっ	2
12	ハラハラ	1
13	めちやくちや	1
14	ブワッ	1

## 6. 結論

以上の事から、童話にも沢山擬音語・擬態語は含まれている。しかし、同じ擬音語・擬態語ではなく、様々なものを用いていることが明らかになった。

<sup>7</sup>はじめての世界名作えほん あかいえほんのおうち（1～40巻） 出版社：ポプラ社 文／中脇 初枝 絵／亜細亜堂 2019年11月

結論として、筆者は、童謡に含まれる擬音語・擬態語を探った。200の童謡の歌詞の中から120個の童謡の中から擬音語・擬態語を見つけ出したのである。120個の童謡から得られた擬音語・擬態語の数は計：242個である。擬音語は擬態語より多いことが以下の表を見ると分かる。童謡では音のイメージを表すオノマトペを用いることが多いことが明確になった。童話にも沢山擬音語・擬態語は含まれている。しかし、同じ擬音語・擬態語ではなく、様々なものを用いていることが明らかになった。

よって、特に研究対象にするオノマトペは童謡から収集したものとした。

#### 参考文献 (REFERENCES)

1. 金田一春彦編 (2002) 『学研 現代新国語辞典 改訂第三版』学習研究社
2. 田宇 (1998) 「現在、オノマトペの一般的に二つの種類がある」東京堂出版
3. 森田雅子(1953) 「語音結合の型より見た擬音語・擬容語—その歴史的推移について—」東京大学国語国文学会至文学会
4. 金田一(1978) 「擬音語・擬態語概説」角川書店
5. 成美堂出版編集 「思い出の童謡・唱歌 200 唄い出し索引つき 楽譜」2001.08.06
6. はじめての世界名作えほん あかいえほんのおうち (1～40巻) 出版社：ポプラ社 文／中脇 初枝 絵／亜細亜堂 2019年11月
7. Karimov, A. A. (2022). The Problem Of The Grammatical Category Of The Chinese Language. Texas Journal of Multidisciplinary Studies, 5, 226-229

#### WEB サイト :

1. <http://nihonjiten.com/nihongo/giongo/> 日本辞典
2. [thesaurus.weblio.jp](http://thesaurus.weblio.jp) > 擬態語 > こそこそ
3. [m.chiebukuro.yahoo.co.jp/detail/q1360961053](http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp/detail/q1360961053)  
<http://www.weblio.jp/content/>